様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ４ 月 ２８ 日現在

機関番号：１３３０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2016
課題番号：２５７７０２９５

研究課題名（和文）条件不利地域における社会関係からみた農地利用の維持システムに関する研究

研究課題名（英文）Studieis of the maintain of farmland use in terms of social relationships in marginal areas

研究代表者
吉田　国光（YOSHIDA, Kunimitsu）

金沢大学・学校教育系・准教授

研究者番号：７０５９９７０３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では，農地の維持に向けた農地移動に至るプロセスに，農家間のいかなる社会関係が存在するのかを分析することから，農業集落という物理的空間において，どのように農地利用が維持されているのかを明らかにすることを目的とした。その結果，ムラ的な社会関係のあり方が農地利用の維持に重要な役割を果たしていた。一方，同一集落内に農家と非農家が混住することにより，ムラ的な社会関係の内実や農地の経済的役割は変化していた。農地利用の維持という行為が，経済的利益をもたらさないにもかかわらず，「農家の善意」によって支えられている場合もあった。こうした場合，農地の受手にとっては農地を請負うことは負担となっていた。

研究成果の概要（英文）：This study aims at revealing how farmlands are managed by examining the roles played by the transfer of farmland rights in farm management and agricultural settlements; the study's analysis is based on the social relationships among farmers that are involved in the process of maintaining farmland use for farmland maintenance. This study focuses on the spread and connection of social relationships among farm households. It also classifies various other social relationships after a careful consideration of each of their characteristics and analyzes them based on how these social relationships form layers, as explanatory variables, and who uses farmland through the transfer of farmland rights as explained variables. Based on this analysis, the study examines the role played by each transfer of farmland rights in the farm management of individual farm households.

研究分野：人文地理学

キーワード：農地利用　社会ネットワーク　中山間地域　島嶼地域

１．研究開始当初の背景

1990 年代以降の日本では，農業従事者の高齢化にともなう離農が進行し，これら離農者の農地をいかにして継続的に利用し，耕作放棄地のさらなる増大を防ぐことが求められている。こうしたなかで特定の大規模農家や集落営農組織に，どのように農地の権利や耕作権を移動させるのかが課題となっている。しかし，農地は個別農家の経済財という役割に加え，「ムラ」という社会を構成する基礎的な要素としての役割も有しており，個別農家が単なる経済財として自由に取引できるものではない。また日本において農地１区画の面積は小さいものが多く，とくに条件不利地域といわれるところでは，必ずしも規模拡大が収益性の向上に結びつかない事例もみられる。こうしたなかで，農地は経済活動の場という役割に加え，個別農家や集落営農組織などの集団間の利害調整を動機として維持されてきており，国土保全の観点からも重要な営為となっている。

２．研究の目的

本研究では，条件不利地域を事例に，農地の維持に向けた農地移動に至るプロセスに，農家間のいかなる社会関係が存在するのかを分析することから，農業集落という物理的空間において，どのように農地利用が維持されているのかを明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

先行研究より現代の農村を読み解くうえで，農地移動を取り上げる重要性や，その背景にある農家間の社会関係を分析する必要性についても指摘されてきたが，十分な分析はなされてこなかった。これは，研究対象が個人資産でもある農地や，聞かれたくないような人間関係であったりすることから，調査の実施が困難であったからである。こうしたなかで，研究代表者はこれまでの一連の研究で農地や農家間の社会関係に関する調査を実施し，一定の成果を上げてきた。

（１）統計類や先行研究より，日本における条件不利地域を経営内容(ex. 就業形態，農用地面積の推移，農業就業者の年齢構成比)や，作目(ex. 稲作専業，畑作専業，耕畜複合など)などから地域区分を行い，具体的な調査対象集落を選定する。
（２）対象集落居住者への聞き取り調査を実施し，農業経営を中心とした生業形態の変遷について把握する。
（３）各世帯の自作地・借地がどのように分布し，どのように利用されているのかを調べる。
（４）農家間の社会関係については，各個人や世帯がどのような社会集団に属しているのかを調べることにより当該間の紐帯を捉える（図４）。というのも，例えば近隣世帯であり，血縁も有し，かつ同い年である A と B の農地移動に至る契機となった関係について，調査対象者に「どういった関係で共同作業を始めましたか？」と尋ねると，A は「近くに住んでいるから。」B は「親戚だから。」という返答が考えられる。どちらも間違いではないが，この調査方法であると A－B 間の結びつきは断片的にしか捉えられず，「同い年」という結びつきが欠落してしまう。このことから，農家間の社会関係を醸成する各個人や各世帯の属する社会集団を把握し，それらの組み合わせを検討することで，農地移動に至る契機を捉えていった。

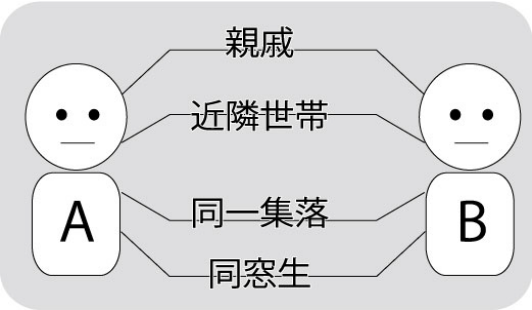

図４　社会関係の組み合わせ

４．研究成果

これまで農地移動に至る契機は「地縁・血縁」と一括り捉えられてきたなかで，地縁や結社縁をその空間的広がりに注目して分析することにより，「地縁・血縁」の意味するものを，集落という社会集団に埋没させることなく捉えることができた。さらには，経済的合理性だけでは説明できない農地利用を通じた農地管理のあり方を可視化できた。

農地は，非農家にとっては経済活動の場所ではないとはいえ，自身の所有する「家産」であり，家産の維持という側面から耕作放棄地化は望ましいことではなかった。全国的に農業経営の大規模化が求められるなかで，経済取引に限定された農地移動に注目が集まりつつある。経済取引に限定すると農地移動が起こりえない条件の地域がある。さらに地域によっては集落内外の農地利用を維持していくうえで，小規模兼業農家が果たす役割も大きかった。全国画一的に推し進められる農業経営の大規模化や「意欲ある農家」のみの育成，株式会社の参入などについては再考の必要があろう。

また，農地利用を維持していくうえでムラ的な社会関係のあり方は重要な役割を果たしていた。一方，同一集落内に農家と非農家が混住することにより，ムラ的な社会関係の内実や農地の経済的役割は変化していた。農地利用の維持という行為が，経済

的利益をもたらさないにもかかわらず,「農家の善意」によって支えられている場合もあった。こうした場合，農地の受手にとっては農地を請負うことは負担となっていた。とくに，中山間地域などの第２種兼業農家が大半を占める地域では，農業経営が収益を得る経済活動としては位置づけえないなかで農地利用が継続されていた。もはや「家産」としての農地利用の維持のみが，農業経営を継続する動機になっているといえる。農地利用を維持することが無条件に強制されるような現状では，農地の有効利用という問題は本質的には解決されない。また，中山間地域のみならず，全国的に非農家も減少していくと予想され，現在と同じ規模の農地であっても維持することは困難であろう。実際，すでにこうした地域では畑の一部が放棄されており，さらに田についても「農家の善意」に頼っている側面がないとはいえない。政策的に農地を有する地域住民に対して無批判・無前提に「農地利用の維持」を訴求するのではなく，地域住民の選択肢として，農地利用の維持に加えて計画的放棄や転用も是認されてしかるべきであろう。こうしたなかで，農地利用は維持すべきものかどうか自体を問い，時には農地の山林化を是認することも必要になってくると考えられる。地域経済および地域社会のなかで，農地がどのように位置づけられているのかを捉え，地域条件に則した方策を練っていく必要があるといえよう。現代的な農地の計画的放棄のあり方については，検討していかねばならない今後の大きな課題である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計９件）

（１）形田夏実・吉田国光　2016．生産・流通の動向からみた「加賀野菜」をめぐるブランド化の諸相．地理空間 9：189-204．（査読有）

（２）島　英浩・吉田国光　2016．地方都市中心部における買物環境をめぐる課題−石川県金沢市長土塀地区の事例−．日本海域研究 47：71-84．（査読有）

（３）鎧塚典子・吉田国光　2016．重要伝統的建造物群保存地区における景観保全活動の展開−富山県高岡市金屋町の事例−．日本海域研究 47：35-47．（査読有）

（４）馬場千遥・吉田国光　2015．長野県木島平村糠千地区における地域づくりの現状と課題−行政・住民・大学の取り組みに注目して−．地理空間 8：1-18．（査読有）

（５）鎧塚典子・山本祐大・島英浩・ 形田夏実 ・吉田国光　2015．熊本県天草市崎津における生業変化からみた漁村景観維持の背景．地理科学 70：1-21．（査読有）

（６）吉田国光・Nguyen QuocVuong・中川知成・中村淳志・山本祐喜子・吉岡由哲　2015．ベトナム・ハノイにおける教育実践研究の成果と課題．教育実践研究（金沢大学）41：31-41．（査読無）

（７）吉田国光　2015．学界展望 村落．人文地理，67：228-230．（依頼）（査読無）

（８）吉田国光　2013a．淡路島三原平野における農業生産をめぐるネットワーク．村落社会研究ジャーナル 39：35-46．（査読有）

（９）吉田国光　2013b．十勝平野における農家間ネットワークからみた大規模畑作の動態．経済地理学年報 59：197-215．（査読有）

〔学会発表〕（計８件）

(1)庄子元・吉田国光 2017．都市近郊中山間地域における就業動向からみた農地利用の維持基盤―石川県能美市舘集落を事例に．日本地理学会 2017 年春季学術大会（筑波大学：茨城県つくば市）所収：日本地理学会要旨 9, p154．2017 年3月 28 日

（２）YOSHIDA Kunimitsu and KATADA Natsumi 2015. Analysis of Prduction and Selling Styles for Some Aspects of Branding Strateagies for Kaga Yasai. The 10th -China-Japan-Korea Joint Conference on

Geography, Shanghai, China, 2015 年 10 月 11 日 (oral presentation)

(3) 吉田国光・形田夏実 2015. 生産・流通の動態からみた「加賀野菜」をめぐるブランド化の諸相. 日本地理学会 2015 年秋季学術大会(愛媛大学:愛媛県松山市)所収:日本地理学会要旨 88, p267. 2015 年 9 月 19 日

(4) YOSHIDA Kunimitsu 2015. Analysis of Stakeholders' Networks for the Agricultural Production Space in Awaji Island, Japan. International Geographical Regional Conference 2015, Moscow, Russia, 2015 年 8 月 20 日 (poster presentation).

(5) YOSHIDA Kunimitsu, YOROIZUKA Noriko, YAMAMOTO Yuta, SHIMA Hidehiro, and KATADA Natsumi 2014. Analysis of Changing Livelihoods for Some Aspects of the Japan's Cultural Landscapes in the Sakitsu District, Amakusa City, Kumamoto Prefecture. The 9th Korea-China-Japan Joint Conference on Geography, Busan, Korea, 2014 年 7 月 6 日. (poster presentation)

(6) 吉田国光・形田夏実・島英浩・山本祐大・鎧塚典子 2014: 熊本県天草市崎津地区における生業変化からみた重要文化的景観の諸相. 日本地理学会 2014 年春季学術大会(国士舘大学:東京都世田谷区)所収:日本地理学会要旨 85, p267. 2014 年3月 28 日

(7) 吉田国光 2013. 農をめぐる"お付き合い"ー農村研究の一視点ー. 経済地理学会 2013 年中部支部 10 月例会(金城学院大学サテライト) (招待) 2013 年 10 月 12 日

(8) YOSHIDA Kunimitsu 2013. Analysis of Farmers' Networks for the Dynamism of Large-scale Upland Farming in Tokachi Plain. The 8th Korea-China-Japan Joint Conference on Geography, (九州大学:福岡県福岡市) (poster presentation) 2013 年 7 月 31 日

〔図書〕(計 5 件)

(1) 吉田国光 2015.『農地管理と村落社会−社会ネットワーク分析からのアプローチ』世界思想社. 202 ページ

(2) 吉田国光 2015. 地理学の研究動向. 日本村落研究学会・植田今日子企画編『年報村落社会研究第 51 集 災害と村落』農山漁村文化協会, 340-351. (依頼) (査読無)

(3) 吉田国光 2015. 農地管理と担い手. 馬奈木俊介編『農林水産の経済学』中央経済出版, 108-128. (依頼) (査読無)

(4) 田林 明・淡野寧彦・横山貴史・吉田国光 2015. 栃木県那須地域における農村空間の商品化による観光発展の可能性. 田林 明編『地域振興としての農村空間の商品化』農林統計出版, 143-184. (依頼) (査読無)

(5) 吉田国光 2013. 土地利用調査. 人文地理学会編『人文地理学事典』丸善出版, 134-135. (依頼) (査読有)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

YOSHIDA Kunimitsu ウェブサイト
http://edgeo.w3.kanazawa-u.ac.jp/yoshida/welcome.html

・金沢大学サテライトプラザ・ミニ講演．題目：文化財は誰のものか？－「ふるさと」の景観を考える．（金沢大学サテライトプラザ：石川県金沢市）（2014 年 6 月 28 日）
・東北大学大学院環境学研究科 環境・エネルギー経済研究分野 第 23 回環境・資源経済学ワークショップ．題目：村落社会と農地管理の諸相：定性的な社会ネットワーク分析の可能性．（東北大学：宮城県仙台市）（2013 年 12 月 20 日）招待講演

６．研究組織
(1)研究代表者
吉田　国光（YOSHIDA, Kunimitsu）
金沢大学・学校教育系・准教授
研究者番号：７０５９９７０３

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）